



かみばやし

しげる

# 神林 茂

## 東京2020オリンピック・パラリンピック特集

昨今、新国立競技場の設計・新エンブレム選定など、残念ですがあまり好意的な報道が伝えられていません。本来、オリンピック・パラリンピックは、他人ごとではなく、我々一人一人が力を合せて創り上げていく国民的行事です。子どもたちに将来の夢と希望を与え、同時に、産業や経済、福祉や医療、環境や街づくり、教育文化に至るまで、「東京を世界一の街」に創り上げていきましょう！

### 夢のあるスタジアム建設へ

#### 〜新国立競技場〜

七月十七日、安倍首相が「オリンピック・パラリンピックは、国民やアスリートに祝福される大会でなければならぬ」として整備計画が白紙に戻った新国立競技場。二〇二〇年大会のメインスタジアムとなることから、建設の遅れなどは絶対許されません。また、史上最高の大会を実現するためには、開催都市である都も、国や組織委員会と一致協力して事に当たる必要があります。都は、舛添知事が関係閣僚会議に出席して、アスリートや観客の視点に立つこと、神宮外苑地区の歴史と風格ある周辺環境との調和を図ること、などを都としての意見として訴えてきました。

そして、首相の見直し表明から一カ月余後の八月二十八日、新たな整備計画が決定しました。基本理念には、①アスリート第一、②世界最高のユニバーサルデザイン、③周辺環境等との調和や日本らしさ、が謳われ、都の主張も反映されています。

今後、整備事業者の公募とともに、工事費等の財源について議論が行われます。将来の都民・国民にとって貴重な遺産（レガシー）となり、親しまれ愛される施設となるよう、都もしっかりと国に協力していきます。

特に私は、新国立競技場が「安かろう、悪かろう」ではないといけないと考えています。少なくともこれから五十年



旧国立競技場

以上にわたって、日本を代表するメインスタジアムとして活用していく施設です。もちろん、必要以上の贅沢や無駄な機能はなくすべきですが、将来にわたって、幾多の世界的なスポーツやイベントが是非日本で開催したいと言われるように、支障なく必要十分なレベルの施設を検討すべきと考えます。

### どこへ行くのか？エンブレム

去る七月二十四日、オリンピック・パラリンピック組織委員会が、大会エンブレムを華々しく発表いたしました。ところが、その直後から、ベルギーの劇場のロゴに酷似しているとの報道が世界中を駆け巡り、大きな反響を引き起こしました。

IOCと組織委員会では、発表前に国内外の商標調査を行い決定したものであり、製作者である佐野研二郎氏が完全なオリジナルであることを主張することから、問題ないとのコメントを発表しました。

しかし、九月に入り、日増しに抗議や疑惑が高まる中で、組織委員会は、継続使用によるオリンピック・パラリンピックそのものに対する国民の支援が損なわれることを懸念し、佐野氏から原案を取り下げたいとの提案も受けて、エンブレムの使用中止を発表しました。

中止に伴う都への影響は、都と組織委員会が共催した大会エンブレム発表イベント（約七千万円）についての経費負担を組織委員会が都に請求しないことで合意されたため、エンブレムを用いた制作物のうち、支出済及び既に出来上がり支払いを要する経費約六百万円を除いて、ほとんどムダな負担をすることなく対応することができました。

今後の対応は、組織委員会が既に、東京2020エンブレム選考に向けた準備会を立ち上げ、前回選考の経緯を確認するとともに、新たな審査委員の選定や方針を検討し始めました。公募を前提として、より開かれた選考方法により、

新たなエンブレムを作成していく予定ですので、発表を楽しみにして下さい。

(写真及びロゴはオリンピック・パラリンピック準備局提供)

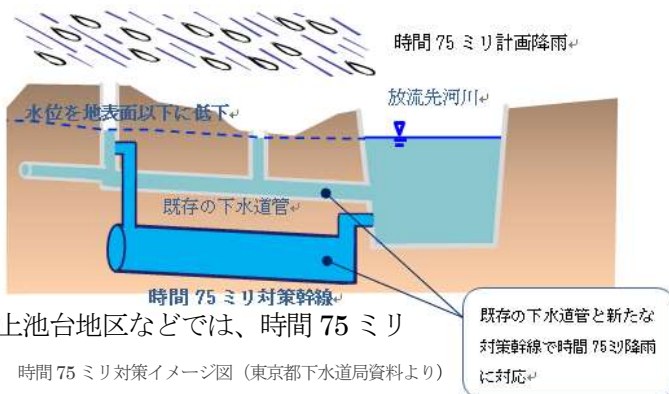


# 豪雨のつめ跡深く、復旧に向けて全力を！！

太平洋沿岸に停滞する前線や台風 18 号の影響で、9 月 9 日の夜から 10 日にかけて、茨城県、栃木県、宮城県で記録的な大雨となり、人的被害、浸水害、土砂災害などが発生しました。

東京都では、被害発生当日より、警視庁広域緊急援助隊、消防庁緊急消防援助隊が派遣され、翌日には、東京DMA T 指定医療機関から医療救護班 8 チームが現地入りし、救助活動にあたりました。今後は、県からの要請に基づき、給水袋や土のう袋、動物愛護ゲージ等の搬送、衛生対策などの専門人材派遣、ライフラインの復旧などに、引き続き支援活動を行う予定です。

また、東京都における浸水対策としては、都市化に伴う雨水流出量の増大に対応するため、中小河川では、護岸整備や地下調整池の整備を行い、浸水の危険性の高い地区では、時間 50 ミリの降雨に対応する幹線やポンプ所などの基幹施設の整備を進めてきました。特に、近年、浸水被害の多い大田区上池台地区などでは、時間 75 ミリの降雨に対応できる整備も進めています。



時間 75 ミリ対策イメージ図（東京都下水道局資料より）

## さあ、秋だ！紅葉だ！津南へ行こう！

いよいよ紅葉の季節がやってきました。

新潟県のニュー・グリーンピア津南は、大田区と保養施設提携を行っていて、平日大人一名、一泊二食付でお得な 8800 円で宿泊ができます（大田区保養施設制度利用の場合）。

天然温泉に浸かりながら、紅葉の雄大な景色を一望いただき、選び抜かれた旬の食材をふんだんに盛り込んだ料理で、おもてなしをいたします（ニュー・グリーンピア津南パンフレットより）。

ご予約・お問い合わせは、☎03-5946-2361、大田区民の方の割引（2000 円）には、身分証明書の提示が必要となります。

ちなみに、交通手段は、車の場合、関越自動車道塩沢石打 IC 下車約 40 分、電車の場合、JR 越後湯沢駅前より無料バスで約 50 分、指定保養施設制度利用の場合は、JR 蒲田駅東口付近より直行バス（往復 2000 円・要予約）も運行されています。



津南の豊かな自然



ニュー・グリーンピア津南



夕食は旬の食材満載のバイキング（写真はニュー・グリーンピア津南HPより）

## オリ・パラ、追加種目決定！IOCに提案へ

東京オリンピック・パラリンピックへの準備も日一日と現実味が増し、競技団体関係者や日頃から応援したいスポーツをお持ちの方にとっては、新たに正式追加種目に加わるのかどうかは、大きな関心事だと思います。

9 月 15 日に、種目追加検討会議が開催され、「公平で透明性あるプロセス」のため、競技ごとの点数評価が提案されました。9 月 28 日には、IOC への提案種目の決定が行われ、野球・ソフトボール、空手、ローラースポーツ、スポーツクライミング、サーフィンを IOC に提案することが決まりました。IOC は今後、プログラムを検証する専門委員会、提案内容を吟味し、追加種目は来年 8 月にリオデジャネイロで開かれる IOC 総会で正式決定されます。（平成 27 年 9 月 30 日現在）

## 認知症への取り組みが着々と進む！



東京都では、各地域において、認知症の人とその家族を支援する体制をつくるため、医療機関相互や、医療と介護の連携の推進役である認知症疾患医療センターの整備を進めています。

大田区の荏原病院（地域拠点型）をはじめ、都内 41 医療機関において、専門医療相談、鑑別診断、身体合併症と行動・心理症状への対応、地域連携の推進等が実施されています。